

ピースメッセージ #1

電力総連 M・Jさん

2026 平和行動 in 沖縄に参加し、沖縄戦の実相と平和の尊さについて深く学ぶことができました。

これまで戦争といえば8月6日、9日、15日が強い印象としてありましたが、沖縄では6月23日が「慰霊の日」とされ、組織的戦闘の終結として特別な意味を持つことを初めて知りました。この日に黙祷を捧げ、戦没者の思いに静かに向き合った時間は、戦争に対する自分の認識を大きく揺さぶりました。

フィールドワークでは、系数アブチラガマやひめゆりの塔を訪れました。組織的戦闘は6月23日に終わったとされていますが、実際には8月15日を過ぎてもガマの中には負傷兵や住民が残され、暗闇と飢え、恐怖の中で必死に生き延びようとしていたことを知り、戦争の残酷さを改めて痛感しました。

資料館で見た証言や遺品からは、戦争が日常と未来を奪うものであることが強く伝わってきました。

今回の参加を通じて、来年以降の6月23日は、今までとは違う重みを持つ日になると感じています。学んだことを次世代へ伝えていくことが、平和を守る一歩になると強く思います。



ピースメッセージ #1

電力総連 S・Yさん

今回の沖縄平和活動では、ひめゆり平和記念資料館・平和記念公園・
糸数アブチラガマを訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く学びました。

ひめゆり平和記念資料館では、戦時中に看護活動を行った学生たちの
体験を知り、20歳にも満たない学生たちが過酷な状況に置かれていたこ
とに大きな衝撃を受けました。

平和記念公園では、多くの犠牲者の名前が刻まれた慰霊碑を前に、戦争
によって失われた命の重みを改めて感じました。また、糸数アブチラガマでは、
当時の人々が恐怖の中で身を寄せ合いながら、生き延びようとしていた様子
を想像し、戦争の現実をより身近に感じました。

今回の活動を通して、平和な日常は決して当たり前ではなく、多くの犠牲の
上に成り立っていることを実感しました。この経験を忘れず、平和について常
に考え続け、戦争を二度と起こしてはならないと強く思うとともに、周りの人た
ちや子供たちに伝えていければと思います。



連合平和行動2026

ピースメッセージ #1

情報労連 H・Hさん

「2026 連合平和行動 in 沖縄」に参加し、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて考える貴重な機会をいただきました。

ピースフィールドワークにて沖縄戦の戦跡を訪問しました。系数アブチラガマでは、ガイドの方から病棟や倉庫、井戸の役割をはじめ、負傷兵や姫百合学徒、住民が置かれた過酷な状況について説明を受けました。

ガマ内で照明を消すと、当時の暗闇や恐怖を想像でき、戦時下の過酷な状況をわずかながら体感しました。ひめゆりの塔では、系数アブチラガマに動員された姫百合学徒への理解を深め、現在の学生と変わらない年齢の生徒たちが戦争によって将来を奪われた事実衝撃を受けました。

戦争を繰り返さないためには、その悲惨な事実を一人ひとりが理解し、語り継ぐことが重要です。今回の学んだことを風化させることなく、職場でも平和活動への参加を呼びかけ、平和について考えるきっかけづくりにつなげていきたいと思っています。



ピースメッセージ #1

情報労連 M・Tさん

「2026 平和行動 in 沖縄」への参加は、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える貴重な機会となりました。

糸数アブチラガマでは、光を消した暗闇を体感。戦時下、想像を絶する恐怖のなかで約3ヶ月間もガマでの生活を強いられた人々の苦しみは、現代の私たちには計り知れないほど過酷なものだったと深く胸に刻まれました。

また、ひめゆり平和祈念資料館の展示や生存者の証言資料からは、戦争の悲惨さがリアルに伝わってきました。壮絶な状況下で看護活動に従事していた学徒隊の姿を知り、胸が締め付けられる思いでした。

今、何不自由なく日常を生きられている幸せを痛感するとともに、世界で続く紛争から目を背けてはいけないと改めて思いを強くしています。

日本の人口の約9割が戦争を知らない世代となった今だからこそ、この平和な日常への感謝を忘れず、「絶対に戦争を繰り返さない」という強い決意を持ち、平和への学びを次の世代へと語り継いでいく必要があると強く感じました。

